令和６年６月１日 (土) 午後１時 30 分～

大洗町飛城遺跡発掘調査現地説明会資料

㈱　勾玉工房

１．調査概要

・調査期間：令和６ (2024) 年３月 25 日～令和６ (2024) 年６月中

・調査地点・面積：第２次発掘調査区域（東茨城郡大洗町大貫町字飛城 1441 番を含む 20 筆の面積 1,060㎡）

・調査原因：大洗町消防本部庁舎建設事業

・調査主体：大洗町消防本部（消防総務課）・大洗町教育委員会（生涯学習課文化財係）

・受託業者：株式会社勾玉工房 千葉県富里市御料 1009 番地 28（調査担当：調査研究員　山室　敦）

２．遺跡の位置と環境

遺跡の所在する大貫台地は、大洗町の中央部に位置する。涸沼川の下流に形成された低地と太平洋に挟まれた 100㌶の及ぶ広大な台地である。平成 10 年から大貫台団地造成に伴う大規模な発掘調査が行われ、台地全面に形成された遺跡群が明らかになった。

・大貫落神北貝塚・南貝塚：縄文時代後期の斜面貝塚。外洋・内海・汽水産貝類など。

・落神遺跡：弥生時代後期から平安時代後期に及ぶ 145 棟の竪穴建物跡からなる集落跡。中世の土坑・墓壙・溝・堀跡もあり、消滅した一杯館跡との関連が予想される。

・常福寺遺跡：大貫落神貝塚と関連する縄文時代後期の集落跡と、弥生時代終末から古墳・奈良・平安時代に亘る 134 棟の大規模な集落跡。登城館跡と関連した堀跡などの遺構群も検出された。

・登城遺跡：縄文時代中期から平安時代まで断続的に続く 78 棟の集落跡。

・登城館跡：15 世紀後半～ 16 世紀前半を中心とした竪穴状遺構・地下式坑・溝・土塁・堀跡など。

・飛城遺跡：古墳時代からなら平安時代にかけての集落跡。他にも土坑や細い溝跡。

３．飛城遺跡第 2 次調査の成果

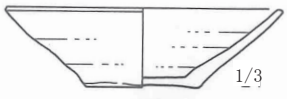
・縄文時代：　後・晩期遺物包含層　１か所　（一定の狭い範囲にまとまって土器が出土した）

・平安時代：　竪穴建物跡　１棟（小型の竪穴建物で、竈が西向きの特徴がある。土師器高台坏・須恵器甕・灰釉陶器碗などが出土し、10 世紀代と想定される）　火床痕跡　１か所

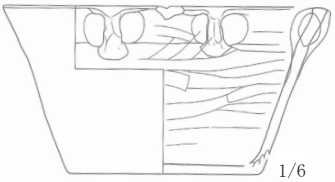
・中　　世：　この時期の遺構は調査区西側、溺れ谷の緩斜面に集中する。
台地整形区画　１か所　　地下式坑　３基　・方形竪穴遺構　５基以上　・溝跡５条以上 (近世以降も含まれる)　現在、調査中で、遺構数は増加する可能性がある。
遺構内やその周辺から、土師質土器内耳鍋や “ かわらけ ”、常滑焼捏ね鉢のほか、天目茶碗や染付磁器・北宋銭 (天禧通寶) がなど出土（15 世紀ごろのものと思われる）。

1/6

『総覧　縄文土器』刊行委員会　2008 『総覧　縄文土器　小林達雄 編』



1/3

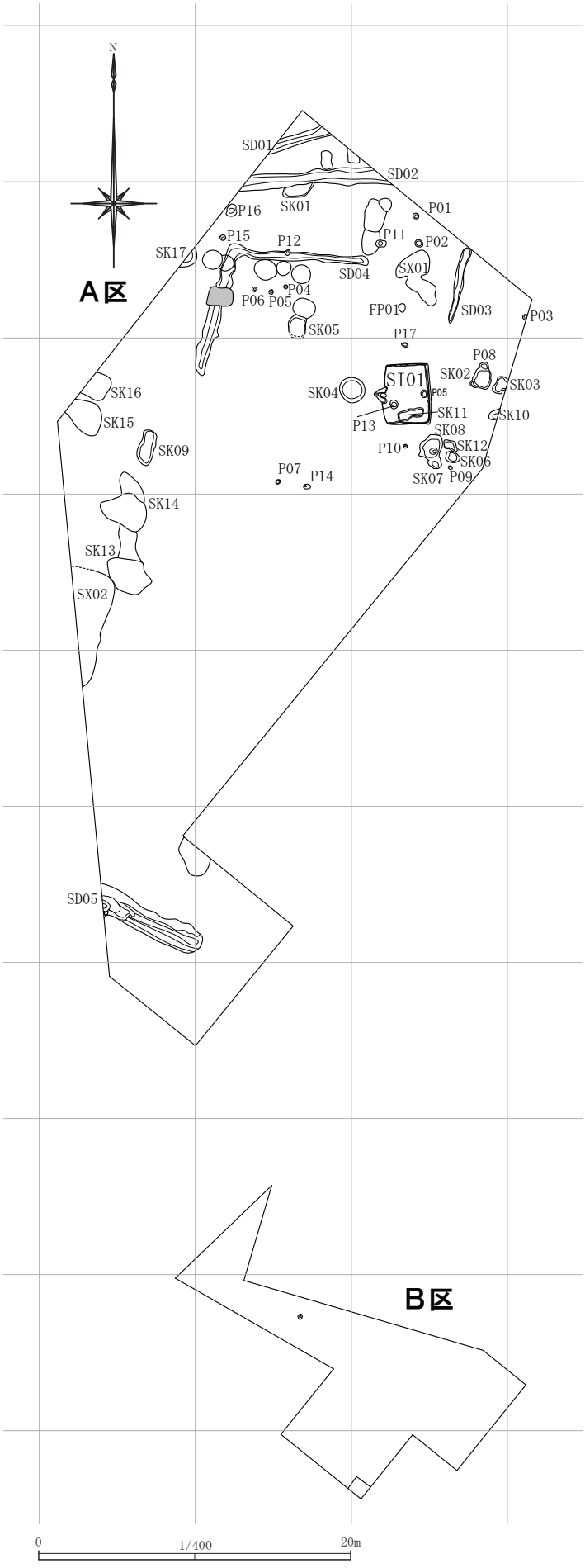


1/6

1/1

1/3

↑ A区　南東から

↑SK13（地下式坑）　上・中層セクション　南西から

↑SK15（方形竪穴遺構）遺物出土状況（かわらけ）　南東から